

館酒造

館家は、江戸時代から油屋を営んでいた旧家で代々油屋三右衛門を名乗っていました。3代目の八平(八兵衛)は酒造業に携わっています。酒の銘柄は「手向山」「関守」「初」といった種類の酒を造っていたようです。跡を継いだ4代目八平(館残翁)は、かつて加賀守護であった富樫氏一族の研究の第一人者でもありました。



館八平(1867-1846)

東支店の引札

東酒造は当時、能美郡に本店を構え、その支店が野々市にありました。東支店では、酒類の販売を行っていたことが引札によりわかります。

東支店の引札には、七福神である恵比寿と大黒の面、その後ろに酒俵と稲穂が描かれています。

